



注目 の 「中央かるた会」 高まる 競技かるた熱



百人一首のかるたを取り合う「競技かるた」が、俄然^{がぜん}注目を集めている。中央大学「中央かるた会」はことし3月の第102回全国職域学生大会・団体戦B1級で全国6位の实力チーム。凜とした、はかま姿からは想像もつかない激しい動きもあり、「畳の上の格闘技」とも言われている。中大競技かるたの活動を追った。



押し寄せる新入生

競技かるたを題材にした人気漫画「ちはやふる」(末次由紀著=既刊31巻、連載中)と、漫画の実写版映画「ちはやふる上の句・下の句の2部作」(主演・広瀬すずさん)が大ヒット。

中大多摩キャンパス・新入生歓迎の各サークル紹介でも、中央かるた会への関心が高まっていた。“新歓”活動見学には大勢の新入生が押し寄せ、なかにはフランス人男子留学生の姿も。

同会のリーダー、森田美乃莉さん(文3)と山崎華恵さん(文2)が試合形式の練習を披露した。試合着も練習と同じようにジャージーなどの動きやすい服装だ。和装・はかま姿は全国選抜大会(会場・明治神宮)など特別の試合で義務づけされる。

競技かるたは百人一首の上の句を聞き、相手より先に下の句が書かれた札を取る。読みあげられる上の句、例えば『たごのうらに うちいでてみれば しろたへの』を聞き、場(畳)の上に並べられた下の句の札、『ふしのたかねにゆきはふりつつ』に手を伸ばす。中央かるた会が勧誘チラシで紹介した歌人・山部赤人の一首だ。

公式戦の試合札は百人一首全100枚のうちの50枚。読まれた歌が場がない場合もあるため、競技者は百首全てを覚えていることが前提条件となる。

場に向かって対面する森田さんと山崎さん。それぞれに体重のかけ方が違う。陸上競技の短距離種目を中学時代に経験した森田さんのスタイルは、つま先だてたクラウチングス

タートのような。山崎さんはバランスを重視している。

取る際に時として、体重移動による大きな動きとなり、札が勢いよく飛んでいく。練習場で借りている多摩キャンパスCスクエアの5階和室。障子の下部分を座布団で保護して、札で障子紙を破らないようにしてあった。

全日本かるた協会によると、かるたはおよそ800年前から庶民に親しまれてきた。かるた人口は約100万人。競技かるたは100年以上も前の1904(明治37)年に始まり、現在は名人位、クイーン位決定戦を男女それぞれの頂点にして、主要大会の開催は全国各地で年間60回超にもなる。

競技者は実力によって、A級・四段以上、B級・二~三段、C級・初段、D級・無段、F級・初心者と位置づけられる。

中大勢は、森田さんと御所名^{ごしよな}佑^{ゆりこ}梨子さん(法2)がともにB級、山崎さんがC級だ。

学生の主要大会には、前述の全国職域学生大会と全国学生選手権が毎年3月末に立て続けに行われる。

全国大学かるた連盟の加盟校は63大学。競技人口増に伴い、年々、参加校が増えている。

◇



中央かるた会のメンバーに、競技かるたを始めたきっかけを聞いた。



森田さん

「高校に入学し、中学時代同様に陸上競技を続けようと思いました。」

しかし、もともとのけがなどを理由に陸上を断念しました。時間に余裕ができて、何かしたい、と考えていたとき、中学のころに読んでいた漫画『ちはやふる』を思い出し、百人一首を覚えよう、と。古典に興味があって、大学では国文学専攻です。高1の冬、校内のかるた大会に出場。競技かるたではありませんが、それなりに札を取れるだろうと思っていたら、一人勝てない女子生徒がいました。勝ちたい、もっと札を取りたい気持ちが競技かるたを始めたきっかけです。高2で同好会を立ち上げ、ことして競技歴4年目です」



御所名さん

「中学・高校とバトントワリング部でした。クラシックなど音楽も好き

です。大学では何をしようかな、と“新歓”をいろいろ見ていると、めっちゃかわいい、はかま姿が。漫画『ちはやふる』を読んでいました。私は奈良出身で、日本独特の文化に触れたいと思っていて。かるたに興味を持ち、“新歓”見学で実際に札を扱ったとき、激しい動きになりました。すぐく汗をかいて、体を動かすのはこれで十分かな。日本人らしさはど

こへいったのかとも思いましたが、
すぐに入部しました」



山崎さん

「都内の親戚宅を訪ねた高校3年の4月、多摩キャンパスを母と見学し

ました。ペデ下の学生掲示板を見て、忍者サークルとか、いっぱいあるねと感心し、近くに競技かるたのチラシを見つけました。中学のころから、漫画『ちはやぶる』を読んでいて、競技かるたを知り、私もやってみたい。そう思っていたのですが、受験勉強や交通アクセスなどで続けられませんでした。中大なら競技かるたができる。かるたが中大入学を決めた理由の一つです」

——競技かるたを続けてきて、よ

かったことは何ですか。

森田さん 「かるたは競技人口の幅が広く、各地域のかるた会では、子どもから年配の方までかるたを楽しんでいます。大学を卒業してからも続けられる。多くの方とかるたを通して交流できます。私は陸上競技歴より長くなりました」

御所名さん 「かるたをしながら、大学生活がとても充実しています。自分がやりたいことに全力を尽くす性格で、大会で悔しい思いをすることもっと頑張らなくちゃ、と思う。大学卒業後に『大学ではかるたを一生懸命していました』と言えます」

山崎さん 「去年の冬、大会が3週連続であって、最終週も出場するか悩んでいました。いずれも地方開

催です。参加料や交通費もかかります。母に相談すると『かるたを一生懸命できるのは学生のときだけ。社会人になったら忙しくなりますよ。行ってらっしゃい』と応援してくれました。母は何気なく言ったのだと思いますが、私は感動しました。母は私が中学時代から、かるたをしたいという気持ちを知っています。その最終週の試合で昇級しました。行ってよかったです。母に感謝しています」



練習中は専用アプリが読み手代わりだ。その都度、森田さんがアプリの操作のために立ち上がる。気分が一新される。場の札を見つめるメンバーたちの表情がより真剣に。

上の句『ちはやぶる～』が読み上げられる。この時点で「はいっ」という元気のいい声が出る。本来は『～

—— 競技かるたのルール ——

How To PLAY かるた

—— 競技かるたのルール ——

まず100枚の札を裏向けにしてよくかき混ぜ、そこから25枚ずつを取ります。それがあなたの持ち札となります(残り50枚は使用しません)

○競技かるたの個人戦は1人対1人でプレイします。

持ち札 25枚を上中段に自分のほうに向けて自由に並べます(左図)この自分が並べる範囲内を「自陣」、相手のほうを「敵陣」といいます。

(図の矢印の範囲内を「競技場」と言います。)

並べおわった 暗記時間です。(15分間)50枚の場所をしっかりと覚えましょう!

13分たったら、裏取りをしながら覚えてかまいません

15分 たつといよいよ競技開始です! まず相手に、次に読み手にしっかりと札をしましょう。

最初に1枚、百人一首とは関係ない歌が読まれます。下の句だけがくり返され、1秒おいて、1番目の上の句だけが読まれます。

※(全日本かるた会では「難読漢字に取くやこの花もこもりや香をきと秋を秋用しています。)

読まれた札(=読まれた歌の下の句が書いてある札)が場にあれば先にその札に触れた方の取りになります。

左図のように、読まれた札(左図の赤)に直接さわらず、★から札を払った場合でも読まれた札が完全に競技場から出れば取りになります

※この場合、読まれていない札に触っていますが、おてつきはなりません!」(2ページ「おてつき」という用語を参照)

※完全に同時に、お互いが読まれた札に触ったかみかみせるとは、自陣に持っているほうの取りになります。

自陣の札を取ったときはそのままですが、下図のように、敵陣の札を取ったときは、自陣の札から任意に一枚相手に送ることが出来ます。

送られた方は、自陣の好きな所へその札を並べます

送り札は相手の方へ向けでいかに送りましょう。

飛ばした札の整理が終わるのを待って、次の歌がよまれます。このとき、読み手は1番目の下の句を読み、一秒おいて、2番目の上の句だけを読みます。このようにしてゲームは進み、先に自陣の札がなくなった方が勝ちになり、その時点でゲームは終了します。終了時、開始時のように相手と読み手しっかりと札をしましょう

© <http://www.karuta.net/>

おてつきとは...?

読まれた札がない陣の札に触ってしまったとき、それが「おてつき」となります(下図左と下図右)。

一方、読まれた札がある陣であれば、それ以外の札にどんなに触れてもおてつきにはなりません(下図まん中)(このルールがあるため、札をまとめて払い飛ばしてもOKなのです)

※おてつきは、空札にするよりも、送るほうがよい。

※おてつきは、空札にするよりも、送るほうがよい。

相手がおてつきをしたときは、ペナルティとして、自陣から札を一枚送ることが出来ます

<注意すること>

両手を使って取ってはいけません。最初にもし手で取り始めたら、その試合中は左で触った札は無効になります。

読み手が上の句を読み始める前に、手を置かずに競技場内に入れたりしてはいけません。

自陣の札の配置を途中で変えるのは自由ですがその時はその旨を相手に伝えなければいけません

かみよもきかず たつたがは』と続くのだが、競技かるたは瞬発力と反射神経、そして暗記力が求められる。札を取るか取られるかは一瞬の出来事だ。

一瞬のために百首をこつこつと覚える。似ているようで違う札も多数ある。素早く札を取るための体重移動にも工夫をこらす。

静と動が織りなすドラマの数々。相手との戦い、自らとの闘い。競技者をとりこにする「競技かるた」の醍醐味がここにある。



中央かるた会の新歓シーン。左から遠藤さん(法2)、御所名さん(法2)、森田さん(文3)。机上には話題の漫画「ちはやふる」があった=多摩キャンパス

からくれな
ぬにみつく
くるとは

メンバーが明かす失敗談だ。上の句が読まれる前の数秒間、場は静寂に包まれる。そのとき、おながが鳴った。「グー」。試合中の相手が驚き、自分をもっとびっくりした。「なんでこのタイミングで鳴るの!？」

札を聞き間違っって手を出す「お手つき」は、勝利への気持ちが一瞬空回りしたときのもの。「私、読まれたら、すぐに突っ込んでいましたから、お手つきはいっぱいあります」。また札を取って満足していると、周囲から「それ、違うよ」と指摘され、失敗だったことに気付く。

こうした試合中の失敗が発奮材料となる。上の句の読み始めて、6文字まで同じという要注意の札が3つある。一例が「きみがためは〜」「きみがためを〜」。競技者は一文字一文字に耳をそばだてる。